

和泉葛城山ブナ林（国指定天然記念物 1923 年指定）を楽しむ・早春から初夏へ

田中正視

ブナ林に春を告げる白い花、タムシバ

まだまだ冬枯れのブナ林を白く華やかに彩るのはタムシバです。タムシバは、モクレン科の落葉小高木^{らくようしょうこうぼく}で、真っ白な 6 弁花を葉に先立って一斉に咲かせます。花はコブシより香りが強く、別名ニオイコブシとも呼ばれています。他には、葉を噛むとキシリトールのような甘みがあることから、「カムシバ（噛む柴）」の別名も。揉むと、とても強い香りがします。

今年は、寒い日々が続きました。山頂の石宝殿^{いしのほうてん}ちかくの分厚い氷がいつまでも残っていて驚きました。そんな冬枯れのブナ林の中で、真っ白な花は今年もよく目立ちました。

実は、タムシバの花はとても美味しいのです。私は、白い花弁を拾って食べました。ふと見あげると、ヒヨドリが夢中になって花を食べ散らかしていました。甘いだけではなくカロリーたっぷり、ビタミン C いっぱいだそうです。ヒヨドリはタムシバの花の秘密をどのように知ったのでしょうか？私もタムシバの花に、<はまってしまいました>。

ブナはトップバッター いち早く芽吹き やさしい黄緑が目覚めます

今年もブナは、他のどの樹種よりも早く芽吹きました。コナラ・コハウチワカエデ・アカシデ・イヌシデなど、ブナ林の他の樹種の冬芽が芽吹くのは、ブナよりずっと後からです。展望台に登って山頂一帯を見渡すと一目瞭然、ブナの本数を数えることができます。

それぞれのブナは、とても個性的です。新緑の様子が微妙に違うのです。枝ぶりや、混芽^{こんが}（枝や葉に加えて、雄花や雌花をもセットで包み込んだ冬芽）の出来具合も異なります。双眼鏡で一本ずつ確認していますと時間を忘れてしまいました。

イヌブナも、他に先がけて芽吹きますが、ブナと比べて葉の質が薄く、やわらかくて大きめの新葉を開きます。このために寒さ対策でしょうか、赤ちゃんの産毛のような細かい毛でおおわれています。下から見上げると、やわらかな黄緑が一層まぶしく感じられます。

今年は昨年と比べて、ブナの開花・結実がたくさん見られるかも？

芽吹いたブナを 1 本ずつ双眼鏡で確認しました。冬の季節に混芽の出来具合を確認しておいて、さらに春の開花の様子を調べています。



図 1. 双葉が開くブナ実生



図 2. 本葉も開く



図 3. 落下したブナの雌花

2017 年は全山フルパワーの大豊作ではありませんが、ある程度の豊作が見込めそうです。来春には前回の豊作年（2014 年春）のような、ブナの芽生えが見られるかもしれません(図 1、2)。

イヌブナはブナと比べてさらに結実がまれで、芽生えもほとんど見られません。2017 年は数えるほどですが、雄花や雌花の開花が確認できました。ブナ同様、秋の結実を見守りたいと思います。

4 月はじめ、花粉を出したブナの雄花が、役割を果たして落下していました(図 3)。

葉っぱで作られた円筒形の巻き物「落し文」を探そう



図 4. オトシブミの揺籃

登山道を歩いていると上手に葉っぱを巻いて作った巻き物のようなものを見つけました。筒の長さは 2 cm 位です。目が慣れてくると、たくさん発見できました (図 4)。

この「落し文」を作ったのは、「オトシブミ」という甲虫（昆虫の仲間）のメスです。母虫はやわらかい新緑を上手に巻いて「ゆりかご（揺籃）」を作り、この中に 1 個の卵を産み込みます。卵からかえった幼虫は、お母さんが用意してくれたゆりかごを食べて、成虫に育つまで守られて暮らします。まさに、「衣食住完備のスーパーゆりかご」です。オトシブミの本や情報をネットで検索してみてください。とても興味深い生態にひき込まれてしまいます。たのしい絵本もたくさん出ています。図書館の子ども向けコーナーがおすすめです。私は、帰宅して奥本大三郎訳/解説の「フェアブル昆虫記」（集英社）を、再読しました。1cm にも満たない小さなオトシブミの世界にはまってみませんか？楽しいですよ。揺りかごを見つけたら、持ち帰って成虫まで見守ることもできます。

雨の日のブナ林は最高です！

はじめ・・・・今年も梅雨が始まります。霧に包まれたブナの森はまるで別世界です。雨の日こそ、和泉葛城山ブナ林に行きましょう。世界最大のキセルガイといわれる「オオギセル」（大煙管）がたくさん姿を見せます。大阪府レッドリスト 2014 では、絶滅危惧 I 類に指定されている陸産貝（カタツムリのなかま）です。大きなヒキガエルは登山道をわがもの顔で、のそのそ歩いています。晴れた日には見られない生き物たちが、息を吹き返したようにあちこちで活動しています。

空に向かって年輪を刻んだブナの幹は、太い枝を精一杯広げ、たくさんの葉をつけて森を創っています。和泉葛城山ブナ林では百年、二百年生き貫いてようやく一人前のブナの仲間入りができます。ブナの樹は恵みの雨を全身で受け止めます。雨水は、丸みを帯びた数えきれないほどたくさんの葉で受け止められて、細い枝から太い枝へと伝わって幹を下り、やがて根元にしみ込みます。枝や幹には黒ずんだ樹幹流が見られます。幻想的なブナの森は「緑のダム」なのです。

ラッキー！今日の雨は恵みの雨です。幻想的な霧の世界が包んでくれる「和泉葛城山ブナ林」にお出かけください。標高 858 m の世界ですから身支度はしっかりとしてくださいね。やさしく包み込んでくれる世界ですが、自然の厳しさも忘れずにお楽しみください。

(たなかまさみ：自然資料館アドバイザー・和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会委員)

五感で体験できる「阪南市歴史資料展示室」

田中早苗

「阪南市歴史資料展示室」は、整理統合に伴って閉園となった阪南市内で一番古い幼稚園の一部を利用して、平成 18 年 11 月 1 日に開設しました。施設内の展示設備はほぼ手作りで、当初は 2 部屋でしたが、平成 22 年にリニューアルし、3 部屋 5 コーナーとなりました。

考古室(図 1)

阪南市内の遺跡を紹介する部屋で、縄文時代から江戸時代までの出土遺物を展示しています。中でも貝掛遺跡出土の奈良三彩八曲長杯(約 1200 年前)と呼ばれる 8 弁の花形杯は、日本で初めて出土したものです。

民俗室

阪南市の伝統産業に関する道具を展示しています。阪南市内では、漁業、農業、木綿作り、瓦製造、製糖業などが営まれ、特に山間部では名産和泉石(和泉砂岩)が採れるため石工業も盛んでした。

また、同室には、阪南市内所在の指定文化財を紹介するコーナーと、今では懐かしい木の机や椅子、明治～昭和初期の教科書などを展示する昔の学校を再現したコーナーがあり、子どもたちにも人気があります。

古民家室(図 2)

台所、茶の間、座敷、納戸、離れなど、昔の室内をリアルに再現しています。戸棚や引き出しにも色々な道具が入っており、タイムスリップした気分になれます。

当展示室では、展示品を眺めるだけでなく、実際に手で触れることにより重みや温かさを実感し、動く音を聞き、木や炭の香りを嗅ぎ、名産和泉石の石臼できなこを作り味わうなど、昔の生活を五感で感じていただけるように努めています。

展示や授業のために、遺跡からの出土品や古民具など



図 1.考古室



図 2.古民家室の茶の間

の貸出も行っていきますので、ご希望の方はお気軽にご相談ください。なお、石臼でのきなこ作りには、煎り大豆をご持参ください。

場 所：阪南市自然田 1460（駐車場有）

開館日時：祝日・年末年始を除く月～金曜日 午前 10 時～午後 4 時

入 場 料：無料

※見学には予約が必要です。阪南市教育委員会生涯学習推進室（072-471-5678）までお申し込みください。

パンフレットはこちらからダウンロードできます

<http://www.city.hannan.lg.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/37/rekisisiryousitsupamphlet.pdf>

（たなか さなえ：阪南市教育委員会）

Information

●チリモン夏祭り 2017

きしわだ生まれの学習プログラム「チリメンモンスター」に関するプログラムを多数行います。申込不要です。

日時：2017年7月17日（月・祝）13:30～16:00

場所：きしわだ自然資料館 1階ホールほか

対象：小学生以上（小学生は保護者同伴）

定員：なし・ただし材料費なくなり次第終了

費用：無料

●自由研究何しよう？どうしよう？相談会

自由研究、どうやってすすめたら良いのか分からない、あるいはやってみたいけど、どのようにまとめたら良いか分からないなどの疑問に、自然資料館学芸員ほか、学校教員 OB や図書館関係者などの専門家がお答えします。質問内容は、生物および地質学関係に限ります。先着順です。

日 時：2017年7月22日（土）13:30～16:00

場 所：きしわだ自然資料館 1階ホール

講 師：学校教員経験者・図書館司書・当館スタッフ

費 用：無料

定 員：なし・受付は 13:00～15:30

●徳川広和・世界の恐竜博物館見聞記

当館の恐竜教室の先生でおなじみの、徳川広和氏による世界の恐竜博物館に関するお話です。申込不要です。

日時：2017年8月13日（日）13:30～15:30

場所：きしわだ自然資料館 1階ホール

講師：徳川広和氏（恐竜造形作家）

対象：小学生以上（小学生は保護者同伴）

定員：40名（先着順）・申込不要

費用：無料

●自由研究相談会(後期)

生物・地質学関係の自由研究で分からないところや、標本のなまえについて専門家がご教えます。化学・物理学・気象天文分野および歴史などの分野は除きます。先着順です。

日 時：2017年8月19日（土）13:30～16:00

場 所：きしわだ自然資料館 1階ホール

講 師：植物・昆虫・貝類・魚類（チリメンモンスター）・岩石・化石の専門家

費 用：無料

定 員：なし・受付は 13:00～15:30

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423- 8100 FAX: (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
きしわだ自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>